

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 五十嵐水産		
事業所名	グループホーム ゆずりは		
所在地	北海道松前郡松前町字静浦464 (電話) 0139-44-2065		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月25日	評価確定日	平成21年2月16日

【情報提供票より】 (平成20年12月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	ブロック 造り 平屋建て
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 12,000円 日常生活費 1,000円 暖房費 10-4月 5,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり・月額 30,000円		

(4) 利用者の概要 (12月 日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84歳	最低 76歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松前町立病院、田口歯科医院、樋口歯科医院、松前記念クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松前町は北海道の最南端に位置し、西は日本海、南は津軽海峡に面し、気候も温暖な歴史のある街で、春には北海道内外から観光客が押し寄せる桜の名所である。「グループホームゆずりは」は、松前町の市街地から少しはずれた自然豊かな高台に位置しており、雑木林に囲まれた静かな環境を保った所にある。運営者は長く民生委員をしており、グループホーム設立の気運も高く町民の福祉に立ち上がり、今日に至っている。理念としても「世のため、人のための事業である」とうたっており、利用者への想いには熱きものがあり、特に食材には力をいれて、新鮮で美味しい食事を提供して喜ばれている。施設長も骨身を惜しまず利用者に力を注いでいる。今後も活躍が期待される事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である運営推進会議への家族の参加は、既に取り組みされており改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全体で取り組んでいる。昨年の課題についても見直しており、作成した自己評価票を推進会議にもかけて検討しており、積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には家族も参加しており、よりよいグループホームを目指して取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と話し合える機会を持ち、気軽に話しあえる雰囲気作りに努めている。現在、苦情は持ち込まれていない。家族への月1回の利用料請求時に、職員直筆の手紙・写真やお便りを添えて、利用者の様子も伝えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、敬老会の時には9名のうち8名が参加している。本読み・ちぎり絵・歌や踊りのボランティアなど、又、近所の小学生が絵を描いてくれたりと地域との交流も盛んである。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	” ゆったり穏やかに のんびり楽しく 共に笑顔で” という理念をかかげている。母体が水産会社ということもあり、食材に力をいれて、運営者は新鮮でおいしい食事に心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日見て、チームは理念の実践に取り組んでいる。	○	理念の掲示場所が食堂にあり、どちらかという職員向けである。玄関先の目に付きやすい位置に掲示して、来訪者に明示していくよう望む。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の行事(老人会・敬老会や町民文化祭)に参加している。本読み・ちぎり絵・歌や踊りのボランティアなど、又、近所の小学生が絵を描いてくれたりと地域との交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組んでいる。又、自己評価票を運営推進会議にもかけて検討を重ねている。その取り組みを通して改めて自己評価の重要性を認識している。前回の外部評価の改善にも積極的に取り組み、実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には家族も参加しており、よりよいグループホームを目指して実践している。今回の自己評価票も推進会議にかけて、積極的に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松前町で運営している包括支援センターとはいつも行き来しており(密に連絡を取り合っ)、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への月1回の利用料請求時に、職員直筆の手紙・写真やホーム便りを添えて介護の状況などとともに、利用者の様子を伝えている。利用者から通帳は預かっていない。金銭出納帳もきちんと整理して、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族が来訪されているので、その都度家族と積極的に話し合う機会を持ち、気軽に話しあえる雰囲気作りに努めており、意見や不満を表せるように心がけている。現在、苦情は持ち込まれていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が無く利用者と馴染みの関係を続けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てるための研修に積極的に取り組んでいて、町内外の研修に参加させている。研修報告書も作成している。4月より制度が変わることもあり、介護福祉士をめざして職員の研修に力をいれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渡島のネットワーク交流会には距離的にも遠く(約110Km)、参加できていないが、近隣のグループホームとは交流して情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を通じたり、ケアマネと主任が直接面会に出向いたりして、家族・利用者も交えて何回か検討を重ねた後で入所されている。入居後も利用者の状態にきめ細やかに対応するため、当初3ヶ月、以降6ヶ月とモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話から学ぶことも多く、積極的に利用者や接していこうと心がけている。利用者の言葉を聞き逃すことなく、利用者の思いを大切にしており、一緒に過ごしながら共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の本人・家族との面談から利用者の生活歴を把握したり、センター方式の一部を利用して日常の会話から想いの部分を拾って記述している。職員は一人ひとりの思いや意向を組み、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でモニタリングし、その後管理者を中心に職員3名で検討しケアプランをまとめて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は3ヶ月でモニタリングし、その後介護計画の見直しも6ヶ月ごとに行っている。家族の意向や状況の変化により随時、見直しを行いきめ細かに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・買物・受診対応など様々に支援している。来訪者の宿泊に対応するために布団などの用意もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期検査として3ヶ月ごとにグループホームのかかりつけ医を受診し、送迎している。適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ対象者はいないが、ターミナルケアに向けて病院側と協議を続けている。	○	今後とも、包括支援センターや協力病院と話し合い、ターミナルケアに向けた方針の共有の実現に向けて、取り組みを期待する。
いn					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のペースを大切にすることを基本とし、穏やかに優しく対応していて、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。天気の良い日はほとんど散歩や買い物・季節によっては野山の散策などにも出かけ、一人ひとりの希望により、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営者の母体が水産会社ということもあって、運営者は新鮮でおいしい浜の食材を利用者に届けようという力をいれており、喜ばれている。職員は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備、後かたづけを一緒にしている。良き食事は、導眠剤や便秘薬が一切使用されていないことからもうかがい知れる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月～土曜日（13:00～16:00）のうちで2回の入浴プランをたてて、本人の希望に添って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	温泉に行ったり、散歩に付き添ったり、施設の周りに花壇を作って四季折々に咲く花を愛でたり、畑をつくったり、カラオケ・カルタ取り・輪投げ・読み聞かせなど一人ひとりに合った役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診日や買い物に同伴して出かけている。外出を利用し個々に食事会やお茶を飲んだりして楽しんでいる。30分でも1時間でも時間があると、天気の良い日は港に行って潮の香りを楽しみ、野山に出かけ自然の花を摘むなど散歩にでかけ利用者の五感を刺激している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には元々鍵が設置されていない。日中は玄関には鍵はかけていない。	○	利用者の中には就寝時居室の鍵をかけることで安眠する人もあるので、この点の配慮を望む。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と一緒に年2回（昼間想定、夜間想定）避難訓練を行っている。	○	近所の方にも参加していただける体制作りの取り組みを望む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については個々に極端な偏りがないように、一日を通じて必要摂取量が確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○	役場の栄養士に協力していただき、年に1回程度献立をみていただいて、栄養状態をチェックする取り組みを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はゆったりとしており、程よく陽も射し込み、明るく自然の温もりが溢れている。手作りの飾り物などをバランス良く配置しており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。清潔に保たれていて不快な臭いや音は感じない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品があり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。